

浦壁氏 T M K P L A Y
(詰将棋閲覧ソフト)
使用法メモ

1	「TMKPLAYの使い方」(概要)	1
2	「TMKPLAYの使い方」(詳細)	3
3	「TMKPLAY補足説明」	9
4	「EXCEL、WORDへの図面、手順の取込」 . . .	11
追補	浦壁氏の T M K P L A Y マニュアル(抜粋) . .	17

平成 1 2 年 5 月

【1】 浦壁氏作「TMKPLAYの使い方」(概要)

TBase第5回配布に際し、浦壁氏のソフト「TMKPLAY」が添付されることになり、各データの閲覧が簡単に出来るようになりました。

下記のメモはこのソフトを入手した際、自分用に「覚え書き」として纏めたものでやや舌足らずの面がありますが参考として添付いたします。

TBaseデータ取込などは後段に簡単に述べてあるだけなので分かりにくく、今回のソフト配布の機会に別途「TMKPLAYの使い方」(詳細)、EXCELL、WORDでの利用法を自己流に作ってみたので併せて添付しますので参考にしてください。

なお、3項に浦壁氏のTMKPLAYVER1.0の「補足説明」を掲げてあります。

平成12年1月22日

浦壁氏のTMKPLAY画面について

今年の1月4日に「風みどり」さんのホームページにアップされた浦壁氏のプログラムはTBASEのDIA、TJNファイルをディレクトリーから直接呼べるので便利である。

説明は添付されていないが、前回NIFTYのソフトVコーナーに公開された「補足説明」を流用できる。(文末に添付)

最初に読込むデータは百局だが最終図で「全てを読み込む」とすれば1ファイルのデータを全て読込める。(ファイル画面内で右クリックでも選択可能)

説明にないメイン画面にある次のアイコンコマンドだけを説明しておく。

「次」「前」「順」「譜」「F11」「掛」「図」「 \wedge 」「 \lt 」「 \ll 」「■」「 \gt 」「 \gg 」「V」「索」

「次」() : 次の図面を選択する

「前」() : 前

「順」(盤外左) : 手順を表示

「譜」() : 指手表示

「F11」() : ファイル画面表示非表示

「図」() : 図のみ表示

「掛」() : ケ-掛-位置?

「報」() : No書誌事項

「 \wedge 」(盤内SFT 右) : 初期局面に戻る

「 \lt 」(盤内Ctrl右) : 手順一手戻る

「 \ll 」(盤内右) : 連続して戻る

「■」(CTRL+SFT) : 連続時手順一時ストップ

「 \gt 」(盤内CTRL左) : 手順一手進める

「 \gg 」(盤内左) : 手順を連続して進める

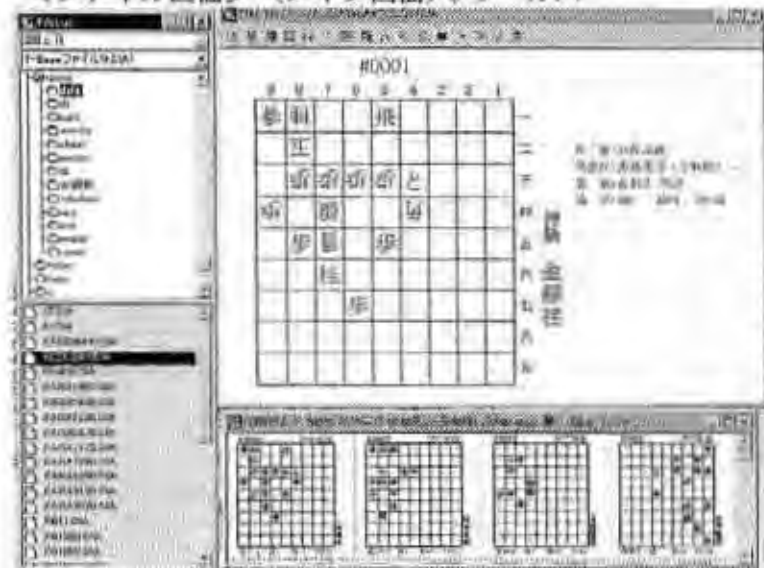
「V」(盤内(SFT左) : 最終局面(詰上がり)

「索」() : 名前検索 (No検索はない)

☆ 盤外でマウス左クリックで環境設定(メニュー)後述

☆ ケ-掛-で右クリックでバー位置が上下右左と変わる

<ファイル画面> <メイン画面> ↓ ツールバー



各画面は通常のウインドウ画面操作で大きさは変えられる。

コマンドはマウスによる操作ができるが、最初はアイコンコマンド(コマンドボタン)の方が分かりやすい。

(注: マウス操作については「TMKPLAYの使い方」(詳細)で説明する)

↑ DIAファイル画面 図面グリッド ↑ スクロールバーで上下移動 ↓

プロパティメニューについて

盤外で右クリックすると下記メニューが出る。表示、非表示はそれぞれON/OFFになっている

棋譜テキスト画面	表示/非表示	F12	表示のままでよい
ファイル選択画面	表示/非表示	F11	#
手順画面	表示/非表示		アイコンの「順」と同じ
TBase 図面クリッド	表示/非表示		表示のままでよい
TBase 情報クリッド	表示/非表示		一覧表示なのでそのまま
図面非表示	表示/非表示		(図番、書誌事項などを表示するのでONのままでよい。)
プロパティ (色・フォント等)			駒のフォント(書体)などを変える
プロパティ2 (位置・TBase等)			TBASEなどの書式などを変える
伝統詰将棋でも後手持駒を表示			そのまま非表示でよい
クリップボードの文字列をファイル名と認識			
クリップボードのテキストを貼り付ける		Ctrl+V	Ctrl+VはWINDOWSの一般コマンド
表示局面をクリップボードへコピー		Ctrl+C	
Enhanced MetaFile を作製			Ctrl+Cも # WINDOWSの図を作る。 (注: 図の取込 EXCELファイル参照)
キャプション	表示/非表示		TMKを閉じたり、図面の拡大縮小
ツールバー	表示/非表示		バーコマンドなので常に表示がよい

(注: プロパティ1では、フォントの書体、色の変更、プロパティ2では主としてTBaseの各種設定ができるが「TMKPLAYの使い方」(詳細)で説明してある。)

画面コピーはSYSTEMCOPYキー(PC98ではCOPYキー)でワープロソフトに挿入コマンドで取込めばよい。画像の加工には画像ソフト(PAINT BRUSH、PHOTOSHOPなど)を使う。メモリを少なくするため出来ればJPEGにしておくのがよい。

(この本文の図もこの方法で一太郎に挿入で取り込んだもの)

(注: 図面、手順の利用の仕方は同梱のEXCELファイルに「TBaseの図面、手順の取込」に簡単に説明してあるので、興味のある方は参考にされたい)

この他マウスを持って行った所にダイアログ(窓表示)が一時的に出るが気にしなくともよい。

(注: マウスの活用についても「TMKPLAYの使い方」(詳細)に触れているが始めはツールバーで使った方が分かりやすい)

ファイルの選択は他アプリケーションと同様、「ファイルを開く」と同じ要領でデータの入ったドライブを1行目(左側のファイル画面)で選び、2行目のファイルの種類でTBASEのDIA選ぶ。

画面左の下欄にDIAファイルの一覧が出るので所定のファイル、例えば(KOZUSIKI.DIA)を選びクリックすればよい。

(注: データの読込の概要は上の通りだが、「TMKPLAYの使い方」(詳細)にもう少し詳しく説明した)

環境設定(各画面の移動、整形など)で書式、表示を変えすぎると見辛くなる。初期状態に戻すにはTMK.EXEの入ったフォルダーのINIファイルを削除すると次回デフォルトの環境INIが作られる。

この説明は、冒頭にも述べたように駆け足でTMKPLAYを見たものでやや、簡略に流れているので次項の「TMKPLAYの使い方」(詳細)で再度瞥見していただきたい。

平成12年5月

【2】 TMKPLAYの使い方 (詳細)

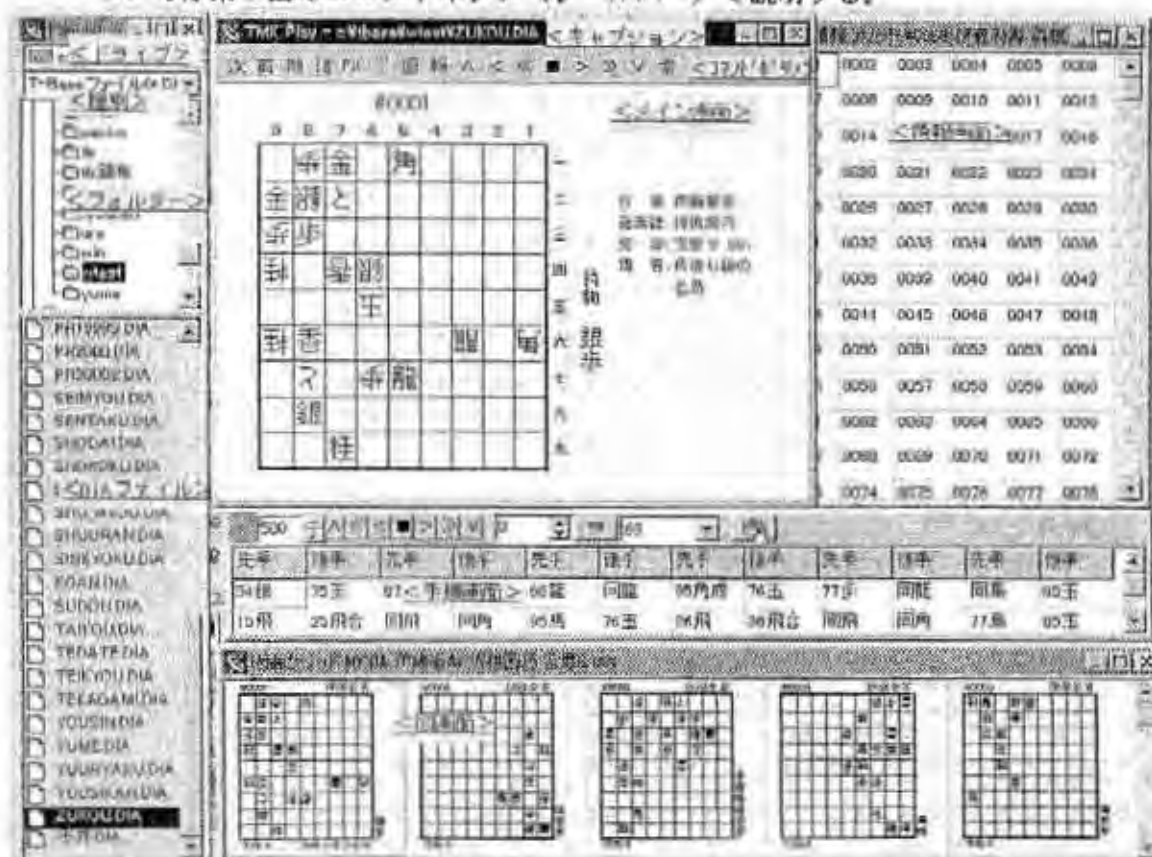
TMKPLAYについては「TMKPLAYの操作 (概要)」に示してあるが端折ってあるので画面の図を中心に、より詳しく説明いたします。

なお、この内容は平井が個人的に操作し確認したもので、思い違い、適切さを欠くところもあると思いますが予めご了承下さい。

1 全体図 (TBase 詰将棋データの導入)

TMKPLAY (以後TPと略す) を開く (TMK.EXEをマウスでクリックする) と図 (駒配置) のない画面が現れる。以下の操作でTBaseデータを読み込む。

- 1) 左の縦長画面で左上の<ドライブ>でTBASEのデータを入れたドライブ (例えば C:) を指定する。
- 2) すぐ下の<種別>の欄の▼で、T-BASEファイル (*.DIA) を指定する。
- 3) <フォルダー>にEXPLORERのようなツリーが出るのでデータの入ったフォルダー (例えば「TBASE」、「KOZUSIKI」など) を左クリックする。
- 4) ツリー画面の下に「DIAファイル」の一覧がアルファベット順に現れる。
- 5) <メイン画面>には一番上のファイル (例えばBAHUU.DIA) 1番の図面が出る。
- 6) ファイルの画面で見たいファイル (例えばZUKOU.DIA) をマウスで左クリックすると第1図サンプル画面の<メイン画面>に図巧1番の図が表示される。
- 7) 第1図には<情報画面>、<図画面>などが表示されているがこの画面の出し方については第2図のコマンドボタン (ツールバー) で説明する。

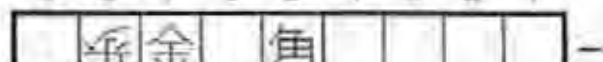


第1図 サンプル図 (全体図)



#0001

9 8 7 6 5 4 3 2 1



第2図コマンドボタン (ツールバー)

2 コマンドボタン (ツールバー)

<メイン画面>には1行目<キャプション>に現在指定されているDIAファイル名、極小化ボタン (□)、拡大 (□)、終了 (X) ボタンが表示されている。

この下にあるのがコマンドボタン (ツールバー) で、それぞれ下記の命令となっている。

- 「次」 次の詰将棋 (例えば#0002) を表示する。
- 「前」 前の詰将棋を表示する。
- 「順」 手順を表示する (表示位置については後述)
- 「譜」 棋譜の簡略図、手順をテキスト画面で示すがIBASEでは不使用。
- 「FIL」 DIAファイルの表示、非表示の切り替え。
- 「(樹)」 手順の樹状表示用 (変化、紛れなど)。浦壁氏の別ソフトIMKPACKER対応。
- 「図」 複数の図面を表示。1行表示図数はプロパティ (後述) で指定。<図面グリッド>
- 「報」 各図面の番号 (作者名、年月)、ウィンドウで書誌を表示する。<情報グリッド>
- 「^」 最初の局面を示す。
- 「<」 詰手順を1手ずつ戻す。
- 「<<」 詰手順を連続的に戻す。
- 「■」 詰手順の中断。
- 「>」 詰手順を1手ずつ進める。
- 「>>」 詰手順を連続的に進める。
- 「V」 最終 (詰上がり) 局面を示す。
- 「索」 作者名での検索 (試行するも「?」)

3 画面表示位置の調製

<メイン画面>、<手順画面>などは「2」のコマンドで出てくるが左マウスでクリックし、その画面をアクティブ (一番上の表示が紺色になる) にする。

上の報 (「手順画面」では左上) をマウスをクリックしたままドラッグすると画面全体を移動することができる。

枠の左右、上下にマウスを当て、矢印 (←→↑↓) が出たらこれをドラッグし上下左右に伸縮できる。コーナー部では斜めの矢印が出るので対角線にドラッグすれば上下左右が同時に動き図面も相対的に拡縮する。(上下左右の操作では原図の大きさは変わらない)

全体の移動、大きさを変えて適宜レイアウトする。(その都度表示させてもよい)

なお、<図画面>が小さい時は拡大ボタンをクリックすればその画面だけが拡大する。

4 プロパティ

プロパティとは簡単に言えば「機能」のことで画面の設定に必要な操作を行える。<メイン画面>上でマウスの右クリック (場合によっては二、三回クリックが必要) でプロパティウインドウ画面 (プロパティ) が出る。(第3図)

このウインドウの中に詳細設定のプロパティ2種 (プロパティ1、2) があり、これをクリックすれば各種設定が出来る。(第4、5図)

5 マウス操作

TMKPLAYが画面に出てすぐマウスを各画面に持っていくと小さなウインドウ（ダイアログボックス）が開く。それも1、2秒なので見落とすこともある。

以下に図示するので、馴ればマウスで素早く手順とか、情報を読みとれるので便利である。

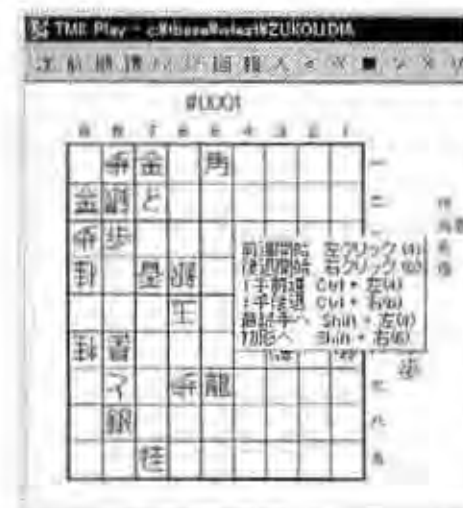


第6図 メイン画面(1)

＜メイン画面＞の右側にマウスを持っていくと図の小ウインドウが開く。

- 左クリック** : 「順」と同じで手順画面のON/OFFとなる。
- 右クリック** : メニュー（プロパティ）ウインドウが開く。
- ダブルクリック** : 一番上の欄（青い行）のキャプション（図の拡大、終了）ON/OFFを行う。（常に表示がよい）

なお、これらの操作は特に小ウインドウを開かなくとも使える。



第7図 メイン画面(2)

＜メイン画面＞の詰将棋図面にマウスを持っていくと第7図の小ウインドウが開く。

- 左クリック** : マットボタンの「>」と同じ。手順を連続的に進める。
- 右クリック** : 「<」と同じ。手順を連続的に戻す。
- CTRL+左** : 「>」と同じ。手順を1手進める。
- CTRL+右** : 「<」と同じ。手順を1手戻す。
- SHIFT+左** : 「V」と同じ。最終局面（詰上がり）
- SHIFT+右** : 「A」と同じ。初期局面に戻る。



第8図 図画面（図面グリッド）

＜図画面＞（図面グリッド）にマウスを持っていくと第8図の小ウインドウが開く。

その図の書誌事項（作者、発表先、年月、備考）が表示される。

なお、それぞれの図面を左クリックするとその図が＜メイン画面＞に取込まれる。



第9図 手順画面

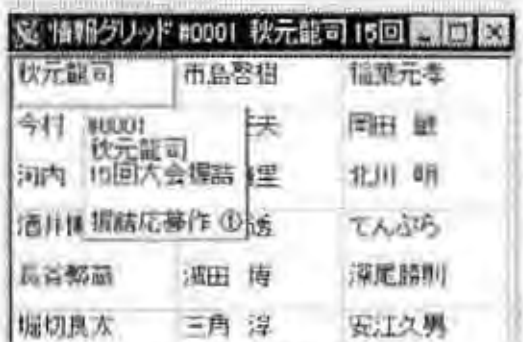
＜手順画面＞では＜メイン画面＞の回の手順が表示される。上欄のコマンドボタンは＜メイン画面＞と同じで、この欄の左に読込数（500）右に現在の手数（0）、その右に読手数（69）を示す。その隣のアイコンを左クリックするとその局面のコピー、CTRLを押しながら左クリックすると「励棋」が起動する。（励棋は詰将棋解法ソフトで別途必要）手順欄のセル（86玉など）をクリックすると＜メイン画面＞にその局面を表示する。



第10図 情報画面 (情報グリッド)

＜情報画面＞ではそのファイルの情報が表示され、そのセル（001など）にマウスを持っていくと作者、発表誌などの書誌事項が見られる。（1、2秒）

ここで左クリックするとその図が＜メイン画面＞に表示され、操作出来る。



第11図 情報画面 (作者別)

雑誌の作品など複数の作者の場合は、第5図プロパティ2のTBase欄の「情報グリッド」で作者欄にチェックを入れると左図（第11図）のように作者名が表示される。

作者名の場合「情報列」を少なくするか（ここでは3列）横に伸ばして姓、名が入るようにするとよい。

後の操作は上記第10図に準ずる。

なお、この例は'99年第15回全国大会の握り詰を示す。（TBASE入力で作成した）



第12図 ファイル画面

＜ファイル画面＞にマウスを持ってくると第12図の小ウインドウが開く。（1-2秒）

右クリック : 読込、エディターのメニュー（第13図参照）が開く。

ダブルクリック : 各種プログラム（森田、柿木、青尾）の起動（そのファイルを選択）

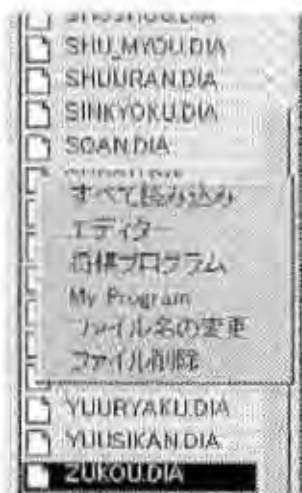
SHIFT+リターン : 棋譜データの編集（編集）

CTRL+リターン : 自作プログラムの起動（何でも可）

TABキー : ＜ファイル＞窓、＜フォルダー＞窓の切替。

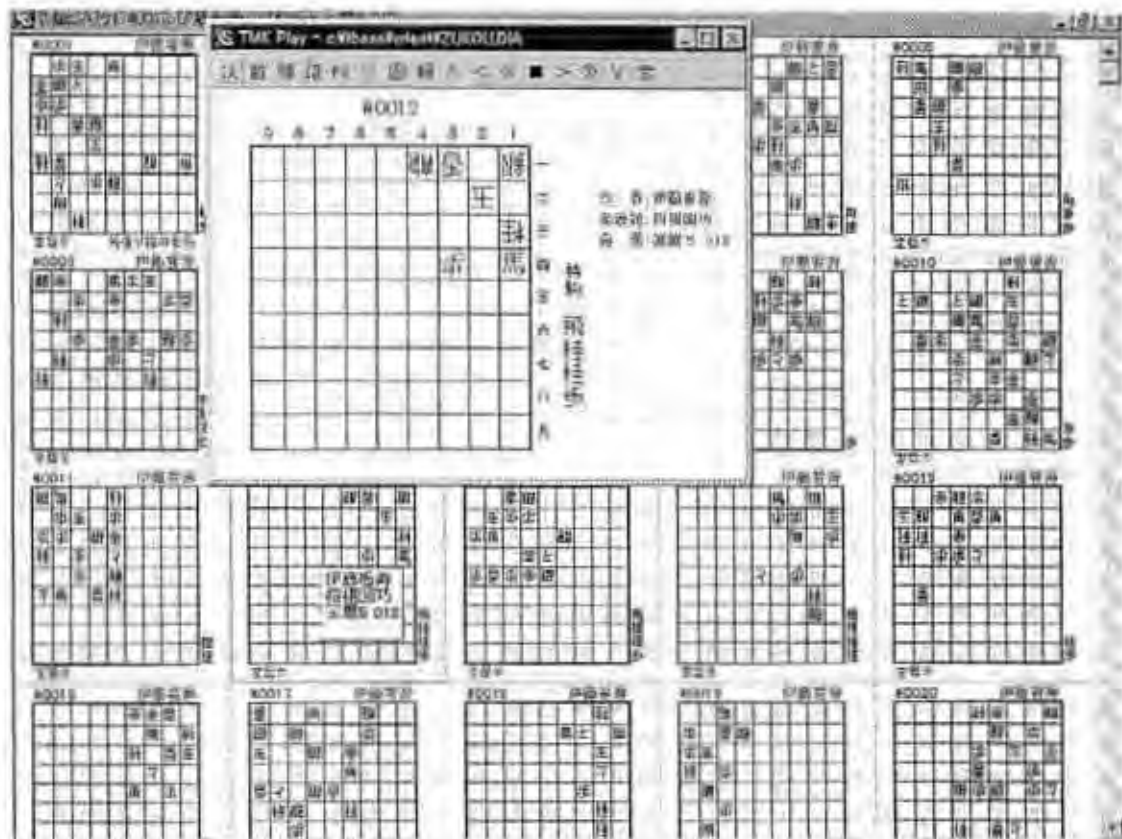
以上のマウス操作に慣れるまで、各画面でのコマンドをメモしてくるとよいかも知れない。

説明中に出てくる「クリック」、「ドラッグ」などがわかりにくければ、手持ちのマニュアルで確認されたい。なお、「CTRL+X」はCTRLキーを押しながらXキーを押すという意味である。



- 第12図でマウスを右クリックすると第13図のダイアログが開く。それぞれの項目をクリックする。
- すべて読込** : 読込局数は第5図で指定するがこれを越える場合ここを左クリックすればそのファイルの全局を読み込める。
 - エディター** : 第12図「エディター」と同じ。
 - 将棋プログラム** : 第12図「関連プログラム」と同じ。
 - My Program** : 第12図「My Program」と同じ。
 - ファイル名の変更** : 選んだファイルの名前変更。
 - ファイルの削除** : 選んだファイルの削除。

第13図 メニュー画面



第14図 拡大図面 (図面グリッド)

それぞれの< >図のキャプション (上欄の紺色の行) で拡大ボタン (□) をクリックするとその画面だけが拡大される。

第14図は<図画面> (図面グリッド) を拡大したモノで複数の図面が閲覧でき、右のスクロールバーをスライドすることにより連続的に複数の図を見ることが出来る。

選んだ図上で「ALT」キー (旧NECキーボードでは「GRPH」キー) を押すとその図が拡大される。(この例では図巧12番を示している)

また、希望の図面をクリックし、縮小ボタン (2) を押すと<メイン画面>にその図が表示されている。

以上 (文責 平井孝雄)

【4】-1 EXCELへの図面・手順取込みについて

平井記

ACCESSを眺めていたところOLEオブジェクトの所にENHANCED META FILE (EMF) なる言葉が出て来たので<TMKPLAY>を思い出し、試してみました。(ACCESS HELP→グラフィックスタイル) emfファイルのWINDOWS版にWINDOWSメタファイル(wmf)というのがあり、これがTMKPLAYで作られる図面データであることが分かりました。

拡張子wmfファイルは直接EXCEL、WORDへのコピー(挿入)はできず一太郎8ではこの形式に対応していないので不可です。但し、EXCELから一太郎への間接コピーは可能です。

その方法はEXCELをテキストファイル(拡張子PRN)で保存し、一太郎で読み込みます。図は読み込まないのでEXCELを表示してそれぞれの図をコピーして(CTRL+C)、一太郎の所定の位置へ貼り付け(CTRL+V)ればOKです。なお、WORD98への取り込みは次項で説明します。

さて、下記の図がEXCELのサンプルですが、手順を追って説明します。

EXCEL(97)に取り込むと各図の区切りが付けやすいのでEXCELを使って説明します。

手順の方はTMKPLAYから取込みは出来ないので、TJNファイルをEXCELへ直接取込みます。TJNファイルはTXTファイルなので、EXCELへの変換が必要ですがある程度機械的に行えます。(手順2を参照して下さい)

<手順1> 書誌事項・図面の取込

- 1 TMKPLAY(以下TPと略記)でDIAファイル(例えばKADOWAKI.DIA)から所定の図面を出す。
- 2 CTRL+Cでクリップボードにコピーしておく。(メインの書誌情報+簡略図)
- 3 メイン画面上で右クリックし、プロパティ画面を出し、下から3行目の「ENHANCED META FILEの作成」を左クリックする。
- 4 ここでTPを極小化し、待避させる。
- 5 EXCELを開く(新規ファイル)
- 6 B2のセル辺りにCTRL+Vでクリップボードより書誌事項などを貼り付ける。
- 7 書誌事項の下に簡略図が出るがこの時点ではそのままにしておく。(行削除しても可)
- 8 簡略図の最下行(B20辺り?)にカーソルを移動しこのセルをアクティブにする。
- 9 コマンドで「挿入」→「図」→「ファイルから」を選ぶ
- 10 ↓で選んだデータのKADOWAKI.DIAファイルのあるディレクトリーを探すとKADOWAKI-WFMが見つかる。
- 11 これを左クリックすると3項で選んだ図がコピーされる。
- 12 この図は4列(B~F)と大きいので図柄のハンドル右下で3列位に縮小する。
- 13 EXCELを極小化し、TPを元の大きさに戻し、ツールの「次」コマンドで次の図面を出し、1から繰り返す。但し、6ではそれぞれE列、H列のセルを選ぶ。
- 14 やや面倒だがTP、EXCELを並べて、又は交互に表示し、根気よくやれば2、30題なら10分程度か?
- 15 最後に簡略図の行を削除し整形すれば下図のようなサンプルが出来上がる。

<手順2> 詰手順の取込

- 1 カーソルをEXCELの#001図の下、このサンプルではB83に持って来ておく。
- 2 ファイルコマンドで「開く」でファイルの種類を「全てを選択」とする。
- 3 詰、TJNファイルを探しクリック。すると待避ファイル(1/3)ウインドウが開く。
- 4 元のデータ形式で2行目の「○スペース」にチェックし、「>次へ」をクリック。
- 5 ウィンドウ(2/3)が開き、作品No欄に区切り線が出る。ここで「完了」をクリック。
- 6 出来上がったシートは作品No(A列)と手順(B列)の2列となる。(C列以降にデータはない)
- 7 長い手順(複数行)の場合、文末の「/」を削除しておく。
- 8 「ウインドウ」コマンドで「整列A」をクリックし、「並べて表示」を選ぶ。
- 9 右側半分に先のシート画面が表示される。左の手順の同一Noの行を選びコピーコマンドを実行。この時、B列だけを選び、No列(A列)は含めない。
- 10 右のシート、図面の下(B83)に貼り付ける。コピーした行の倍、3列を範囲指定す

- る。例えば、詰手順行が3行であれば6行×3列(B83~D87)を範囲指定しておく。
- 11 「編集」コマンドで「フィル」→「文字の割付」を選びリターン(エンター)
 - 12 こうすると図面の下、3列に手順が収まる。
 - 13 同様に各図面の下に詰手順を入れて行けばOK
 - 14 TPのメイン画面で詰上がり図も取り込める(下図サンプル参照)。

注意

- 1 emlファイルはメインの図のみ。またファイル名は変えられないので都度貼り付ける必要がある。(途中図、詰上がり図はファイル名に手数が付き「KADOWAKI_15.wfm」などのファイル名となる)
- 2 wfmファイルは図面だけなので書詰事項は最初にCTRL+Cで取り込む必要がある。
- 3 TPのメイン画面のプロパティで書式を変更すればフォントなどは変えられる。
- 4 この方法の利点は外字などを必要とせず、EXCEL上でコメントも自由に入れられる。
- 5 手順2の説明は図示が分かりやすいが、今回は文章のみとした。
- 6 EXCELで取り込んだ図は一太郎にも読み込めるのでこちらでも整形・編集可能である。
- 7 EXCELを縮小し、画面左半分とし、TMKPLAYをメインを主に表示させるようにすると下記手順をより効率よく行える。(13ページ参照)

サンプル図(詰、DI (KADOWAKI, DIA, KADOWAKI, TJNファイルより))

作品番号:#0001

作者:門脇芳雄
 発表誌:詰バラ
 発表日付:195409 010
 備考:別室 5



【作意】

78銀99玉89金同と98金同玉89銀99玉98金89玉79飛生98玉97金同歩生99歩88玉77銀87玉76銀引96玉87銀同玉89飛78玉88飛69玉58馬同桂成89飛78玉79飛87玉88歩96玉46飛85玉86飛75玉66銀64玉73飛成同玉83飛成62玉63龍51玉24角41玉43龍31玉42角成21玉32馬12玉13龍同玉14と12玉13香まで59手詰

作品番号:#0002

作品名:胡蝶
 作者:門脇芳雄
 発表誌:詰バラ
 発表日付:195502 000
 備考:詰棋界S26.2 私の処女作



【作意】

89金同玉78銀同玉67角同飛成同銀同玉68飛57玉56金同玉55飛同玉64馬56玉66金同桂57歩同玉46馬まで21手詰

注:途中図、詰上がり図は? TPメイン画面で(>)にて所定の図を、又、(V)で詰上がりを表示させる。メイン画面で右クリックプロパティ「ENHANCED META FILEの作成」で行う。

作品番号#0005

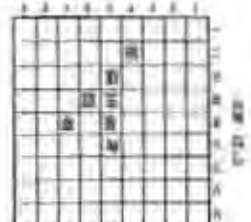
品名:イの字
 作者:門脇芳雄
 発表誌:詰バラ
 発表日付:195601 037
 備考:イロ八字詰



【作意】

42銀52玉53銀成同桂34馬同角42飛63玉74銀54玉6565銀同玉75金54玉55歩同玉64銀生54玉56飛同角55香まで21手詰

<詰上がり図>



以上

【4】-2 TMKPLAY図、手順のWORDへの取込について

事前に1、2項の「TMKPLAYの使い方」を見ておくと分かりやすい。

詰将棋の図、手順をワープロに取り込む場合位置調整、図の大きさの処理を考えると段組みの方が便利なのでここでは三段組を紹介する。

なお、一太郎Ver 8はEMF形式の図に対応していないのでWORD98を使用した。但し、本マニュアル作成に当たり、WORD98をWORD5?ファイルとして一太郎8に読み込み図を張り付けてこの文を作った。

<1>段組設定

詰バラ方式(縦書き)が仕上がりから言って好ましいが始めに横書きで作り、後で横書き→縦書きに変更の方が扱いやすい。但し、23角など半角数字は「組み文字」で縦に変える必要がある。

WORDの新規ファイルを開き「書式」→「段組」→「3段」を選ぶ

<2>TMKPLAYデータの取込

WORDを縮小し、TMKPLAY(以後TPと略す)を立ち上げる。

1) 書誌のコピー

TPの「メイン画面」でCTRL+Cを押す。(クリップボードに一時的に保存)

2) TPを極小化しWORD画面にする。CTRL+Vを押すと書誌事項、簡略図が(クリップボードから)コピーされる。(第1図)

3) 簡略図を削除(範囲指定→DEL)する。(第2図)

種別：詰将棋

作品番号：#0001

作者：秋元龍司

発表誌：15回大会握詰

備考：握詰応募作 ①



持駒：桂香歩

#0手目の局面

第1図 書誌事項、簡略

種別：詰将棋

作品番号：#0001

作者：秋元龍司

発表誌：15回大会握詰

備考：握詰応募作 ①

第2図 書誌事項
(簡略図削除)

種別：詰将棋

作品番号：#0001

作者：秋元龍司

発表誌：15回大会握詰

備考：握詰応募作 ①



第3図 図面の取込
(初期画面)

- 4) WORDを縮小しTPのメイン画面で右クリックし、プロパティ画面を出す。
「ENHANCED META FILEを作る」をクリックする。
- 5) TPを極小化し、WORD画面にする。
ツールバー「挿入」→「図」→「ファイルから」をクリックするとFILE選択画面となる。ここでTBASEデータのあるフォルダーを開けると「(ファイル名).WMF」が見つかるのでこれをダブルクリックし、WORDに図面を貼り付ける。
- 6) この図をクリックすると周囲に枠が現れるので右下にマウスを当て、斜め矢印を動かすことにより図が相対的に拡大、縮小される。適当な大きさを選ぶ。(第3図)
なお、図は初期画面だけでなく詰上がり図も同様の手順で取り込める。
WMF画面はTFILEにつき1図しか作られないが詰上がりはFILE名の後に手数、たとえば「FILE_16.WMF」のようになるので同一図で初期、詰上がり図を指定してもよい。

<手順の導入>

手順はTPからは出来ないのでTBASEの手順ファイルから直接取り込む。

- 1) 現ファイルを残したまま「ファイル」開くでTBデータのあるフォルダー、例えばKOZU-SIKI.TJNを選びクリックすると図面順に手順が表示される。
- 2) 所定の手順ブロックを範囲指定し、CTRL+Cを押す(「編集」コピー命令でもよい)
- 3) メニューバーの「ウインドウ」→「ウインドウの整列」を選ぶと先ほどのファイルが表示されるので両者を並べ編集することになる。
- 4) 取り敢えず図面(第3

図)の下でCTRL+Vで
手順を貼り付けると次のようになる。

「0001 64香63飛62銀成同飛同香成同玉63飛71玉72歩同玉64桂71玉61飛成同玉72角成/0001 まで15手詰」手順番号。改行マーク(↵)を削除し、次のようにする。
「64香63飛62銀成同飛同香成同玉63飛71玉72歩同玉64桂71玉61飛成同玉72角成 まで15手詰」第5、6図に結果を示す。

この手順を繰り返せば必要な局面を連続的に作成できる。

種別：詰将棋
作品番号：#0001
作者：秋元龍司
発表誌：15回大会握詰

備考：握詰応募作 ①

			王	銀					
	香	香							
		?		銀					
				角					

64香63飛62銀成同飛同香成同玉63飛71玉72歩同玉64桂71玉61飛成同玉72角成 まで15手詰

第5図 手順の導入

種別：詰将棋
作品番号：#0001
作者：伊藤看寿
発表誌：将棋図巧
発表日付：宝暦5 001
備考：角送り詰の名局

		金	角						
	金	銀	と						
	歩	歩							
	歩	歩	銀						
			王						
	銀								
		?	歩	龍					
		銀							
			桂						

54銀75玉87桂86玉66龍同龍95角成76玉77歩同龍同馬85玉15飛25飛合同飛同角95馬76玉26飛36飛合同飛同角77馬(中略)52金まで69手詰

第6図 図巧の例
以上

縦書き三段サンプル

(WORD 98 使用)

種別：詰将棋

作品番号：#0001

作者：秋元龍司

発表誌：15 回大会 握詰

備考：握詰応募作 ①

8	7	6	5	4	3	2	1
		三	香				
				銀	角		
香	馬						

持駒 桂香歩

64 香63 飛62 銀成同 飛同 香
成同 玉63 飛71 玉72 歩同 玉64 桂
71 玉61 飛成同 玉72 角成 まで
15 手詰

(注)

①例題として秋元氏作を借
用させて頂きました。

②半角の数字を縦書きする
には「書式」→「組み文
字」で行うがいちいち範
囲指定するのが厄介なの
で二題だけを修正した。

③詰上がり図はTPの「メ
イン画面」で最終局面
▽

コマンド) を出し、プロ
パティ画面で ENHANCED
新TAKEFILE をクリックす
ると初期画面同様「この図
を取込む」ことができる。

種別：詰将棋

作品番号：#0001

作者：伊藤看寿

発表誌：将棋図巧

発表日付：宝暦五 001

備考：角送り詰の名局

8	7	6	5	4	3	2	1
		金	と	角			
金	歩		香	王			馬
香	馬						

持駒 銀歩

54 銀75 玉87 桂86 玉66 龍同 龍95
角成 76 玉77 歩同 龍同 馬三E
飛25 飛合同 飛同 角95 馬76 玉2E
飛36 飛合同 飛同 角77 馬85 玉3E
飛46 飛合同 飛同 角96 馬76 玉4E
飛56 飛合同 飛同 角77 馬85 玉84
飛同 玉96 馬85 玉82 金同 歩75 桂
同 香84 歩82 玉81 銀91 玉82 と同
玉72 金91 玉92 歩同 角 同 銀同
玉74 角91 玉82 金同 玉83 歩成 71
玉62 馬同 玉63 銀成 61 玉72 と 51
玉92 全まで 69 手詰

種別：詰将棋

作品番号：#0099

作品名：「煙詰」

作者：伊藤看寿

発表誌：将棋図巧

発表日付：宝暦五 099

8	7	6	5	4	3	2	1
王		と	香			香	馬
	香			と	龍	と	香
馬	香	歩	と	香	と	歩	と
桂	歩		銀	と	歩	と	桂
			香	と	金	と	

持駒なし

81 と同 玉71 香成 91 玉81 と同
玉72 と 91 玉82 と同 玉73 歩成
91 玉82 と同 玉73 と 91 玉82 と
同 玉72 香成 91 玉82 杏同 玉53
馬同 玉73 飛 94 玉83 飛成 85 玉
84 龍同 玉54 龍 95 玉55 香同 銀
同 歩同 玉87 銀 97 玉94 龍 87 玉
85 龍 78 玉88 龍 67 玉68 銀 58 玉
57 銀 77 玉46 と 57 玉56 金同 と
同 と 91 67 玉76 銀同 玉66 と同
玉77 龍 95 玉55 と同 玉66 龍 46
玉44 と同 玉66 龍 55 歩合同 龍
33 玉53 龍 34 玉44 龍 23 玉24 龍
同 玉15 と 34 玉44 金 23 玉24 歩
13 玉23 金同 銀同 歩成同 玉35
桂 12 玉13 歩同 玉14 歩 12 玉13
銀同 桂同 歩成同 玉23 桂成同
玉33 金 12 玉13 歩同 玉25 桂 12
玉23 金同 玉33 角成 12 玉13 龍
成同 玉24 と 12 玉23 と 11 玉21
香成同 玉72 馬 66 と 百十七 手
詰

8	7	6	5	4	3	2	1
							玉
							馬
							と

持駒なし

右図「煙詰」詰上がり図

平井記